

新語・流行語から見る中国

新潟県立高田高等学校 荒屋 敷勝成

1. はじめに

教科書や資料集に掲載されているさまざまな写真をどのように読み取らせるかはいつも悩んでいる。一方で、授業中に資料集を眺めている生徒も見かけられ、地理に対する意欲を持ち、興味・関心が高いことを感じながら授業している。教員になってから年数が浅いこともあり、新しい学習指導要領の下でどのような授業展開をするとよいか、まだ手探りの段階であるが、今回は「近隣諸国の生活と文化」から、執筆中に反日デモが発生した中国を取りあげてみたい。

2. 新語・流行語から見る経済発展

中国については、中学校でも何らかの形で学習していると思われる。帝国書院『社会科 中学生の地理 世界の中の日本』でも、中国が取りあげられている。また、マスコミからいろいろと情報が入っていることもあり、それなりに関心がある国であると思われる。まずは、生徒に中国について知っていることを書いてもらった。

- 1位 世界一人口が多い（人口が多いも含む）
- 2位 反日デモ
- 3位 一人っ子政策

結果は上記の通りであった。その他には歴史に関連すること（人物名や戦争について）や中華料理、について記した生徒が多い。また、経済発展に関連して、経済特区、郷鎮企業など地理をしっかりと学んできた生徒や近年中国で貧富の差が拡大していることを記した生徒もいる。今日の中国の経済成長については、生徒にしっかりと理解してもらいたいし、考えてもらいたい内容であろう。その際に中国の新語・流行語に着目したい。中国と同じ漢字文化圏である日本。中国の街の看板や標語などは中国語を習得していなくても、なんと

	こんにちは	さようなら
ベケン 北京語	ニイハオ 你好	ワイジエン 再见
シャンハイ 上海語	ノンホー 侬好	ゼーウエ 再会
コウトン 広東語 かんどん	ネイホウ 你好	ツォイゲン 再见

く分かるものである。帝国書院『高等学校 新地理A』ではp.89に「⑩漢語の違い」（左図）として、北京語、上海語、広東語の違いが掲載されている。

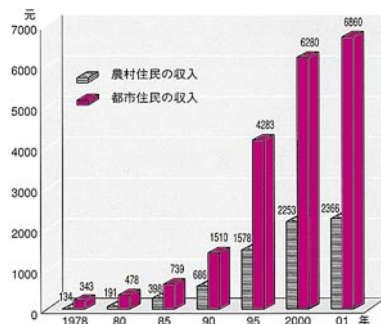
近年の中国の発展と新語・流行語の出現とは相関関係にある。日本も同様であるが、新語・流行語にはその時代の雰囲気や映し出しているものや大衆が頻繁に話した言葉が多い。教科書や資料集の写真を見ながら、新語・流行語を一緒に考えてみると、その時、その時代がわかると思われる。

たとえば、次に挙げる中国の新語・流行語は何のことか、わかるであろうか。みなさんも考えて見てほしい。

- 【問題】 ①万元戸 ②家教 ③手機
④倉儲超市 ⑤人造美女

【解答】

①は地理の教員ならば誰でもわかる。一戸の年収が1万元を超えることを意味するが、この言葉が出現した当時と今日とでは住民一人あたりの収入が全く異なっており、それだけ経済成長が著し



『高等学校新地理A 最新版』 p.93 ⑤図 中11人が

万元戸を知っていた。
②の本来の意味は「家のしつけ」を意味するが、近年では家庭教師を意味するようである。一人っ

子政策と絡んで、「小皇帝」が教科書や各社資料集で掲載されている。溺愛され、甘やかされた一人の子どもに教育費をかける傾向がわかる言葉である。生徒へのアンケート結果でも、一人っ子政策は多くの生徒が知っていた。

③携帯電話

加入件数はすでに日本を超え、世界一の携帯電話大国になっている（2億6900万件 2003年、『世界国勢図会 2004 / 05』）。携帯電話だけでなく、ITに関連する言葉がさまざまある。「寛帯網（ブロードバンド）」、「網頁（ホームページ）」などが挙げられる。また、今回の反日デモもインターネットを通じて広がったことから、中国のITの広がりが見える。

④郊外型量販店

マクドナルドやケンタッキーなどのファーストフードの現地の店の写真、コンビニエンスストアの写真はよく見かけるが、郊外型量販店の写真は見たことがない。しかし、言葉だけではすでに中国にも上陸している。イメージとしては、アメリカ合衆国の大規模ショッピングセンターの写真を思い浮かべるであろう。モータリゼーションにもなって日本の地方都市でも見られるが、中国にも出現しはじめている証拠であろう。

⑤整形美女

⑤については、おもしろくするために出題したものである。すぐに答えがわかるであろう。整形するには当然お金がかかる。お金をかけても美しくなりたいのは女性なら誰も思うことであろうが、中国の所得水準がすでにそこまできている証拠でもある。また、所得の増加にもなって、新たな職業も出てきている。たとえば、「配装師」。スタイリストのことであるが、スタイリストがいれば、モデルもいるし、ファッションショー、広告・宣伝なども関連してくる。様々な分野で様々な職業が生まれ、産業が成長しているともいえる。

3. 経済発展の弊害

小・中学生ならば、このあと、様々なものを漢

字で表現してみる方法があるだろうが、高校生に行っても意味がない。さらに深く、中国国内の経済格差のことも考えさせなければならない。「民工潮」に代表される出稼ぎ労働者が新語・流行語になっているが、農村と都市の経済格差を背景としたものであるし、その「民工潮」の子どもの教育も問題になっている。とくに、帝国書院『新詳地理資料 COMPLETE 最新版』p.143では、二重戸籍のすばらしい資料が掲載されている。

人口移動を制限する二重戸籍

中国では食料確保の必要性から、都市戸籍と農村戸籍が分けてつくれ、人の移動をきびしく制限してきた。

都市の人々は、食料の配給と住居が保証されていることを始め、上級校への進学がたやすい、海外旅行ができるなど、日本人ならば普通と思える生活ができるが、農村の人は移住、とくに都市に住むことが許されないなど、かなり差がつけられている。

二重戸籍制はいまでもきびしく守られているが、市場経済制の導入で都市では多くの労働力を必要とするようになり、これを目あてに非合法の出稼ぎ者が増えた。労働力の確保が重要課題と判断した政府は、食料と住居が自分で確保できれば、都市で働くことを認めるようになった。しかし、農村戸籍をもつ出稼ぎ者の子供は、都市で教育を受けられないなどの問題が生じている。



『新詳地理資料 COMPLETE 最新版』 p.143

経済発展とその弊害については新聞記事となって掲載されることもあり、新聞の写真を見て、あるいは記事を読みながら、生徒とともに中国の経済発展とその問題点について考える機会にしたいところである。

4. むすび

実は、私が中国の新語・流行語を初めて知ったのは、2005年2月6日の読売新聞の記事であった（地域によっては掲載された日が異なるかもしれない）。たいへん興味を持ったので、授業で少し話してみると、生徒はおもしろそうに考えていた。Made in Chinaの服や家電製品も身近に見ることができ、文化の面のみならず、経済の面でも密接な関係にあるのは周知の通りである。様々な情報もニュースや新聞などを通じて入ってきている。いろいろな視点から授業展開が考えられる国であり、趣向をこらして生徒に関心を持ってもらえるようにしていきたい。

なお、中国の新語・流行語については、莫 邦富『中国「新語」最前線 インターネットから性風俗まで』新潮社、読売新聞2005年2月6日付記事を参考にした。